第１０６回歴史健康ウォーク　　２０１０．９．１１

シリーズ「ふるさと交野の遺跡を訪ねて」
＝交野郷土史かるたとともに（森・寺・神宮寺・倉治）＝

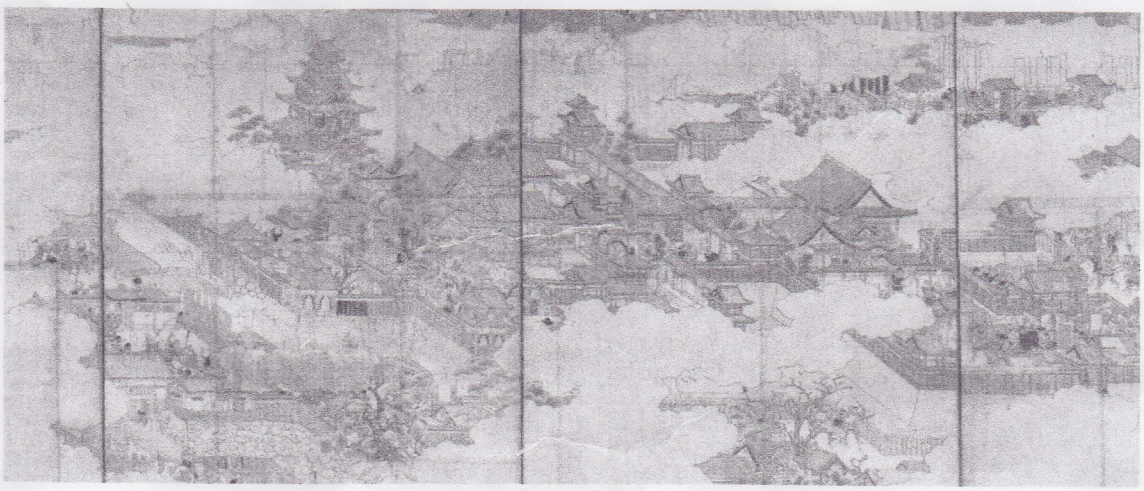
【コース】京阪河内森駅（午前９時）→天田神社→伝説：かえる石→須弥寺（浄土宗）・古代陽石崇拝遺跡→大畑古墳→国重文：山添家→此付近天平時代開元寺跡→神宮寺縄文時代住居遺跡→機物神社→仁平川の洗濯場→歴史民俗資料展示室

神祖営趾之碑

家康旗掛け松跡（星田：新宮山）

（平成２２年９月１日市指定文化財指定）

歴史民俗資料展示室では９月１日より１１月２８日まで交野市指定文化財展「徳川家康と交野～神祖営趾之碑を中心に～」企画展示が開催されております。是非この機会に古文化同好会の皆さま、足を運んで下さいますようにご案内いたします。



大坂夏の陣図屏風　　ビジュアル日本の歴史より

あ

天田（あまた）の宮は
田の神まつる

交野郷土史かるた

私市秋祭り：天田神社獅子舞い奉納

山の根の道

古代の河内の中心である国府（こくふ・柏原の国分）に至る道として「山の根の道」がありました。時代が古いほど村は山に接近していたから、山麓の村々を通るために、曲がりくねっていました。

「河内国興地便覧」（明治２年）より

長尾北峠―長尾―藤阪―津田（天平の津田寺・治郎兵衛宮・古城）―野―倉治―（清水谷古墳・倉治古墳群・機物神社―開元寺）―神宮寺（早期縄文）―寺（弥生中期・徳泉寺）―森（弥生中期・須弥寺）―私市（弥生中期・天田神社）―星田（弥生中期・星田神社・星田寺・円通院・新宮山八幡宮・愛染律院）―大谷―打上から南に続く。今回歩くのは逆コース、私市天田宮➔森➔寺➔神宮寺➔倉治へと真ん中を歩きます。

す

すそをめぐるは
山の根の道

交野郷土史かるた

郷土史かるたはお母さんと一緒に、子どもたちと楽しく、故郷の歴史を覚えながら、カルタ取り遊びを・・・。

蛙石

新婚まもない二人が住んでいた。城普請のため、夫由松は村を代表してでかけましたが、城が出来ても帰ってこなかった。

無垢根亭

大門酒造（酒屋半左衛門）創業文政９年・１８２６年。菊養老・利休梅の銘柄がある。

交野郷土史かるた

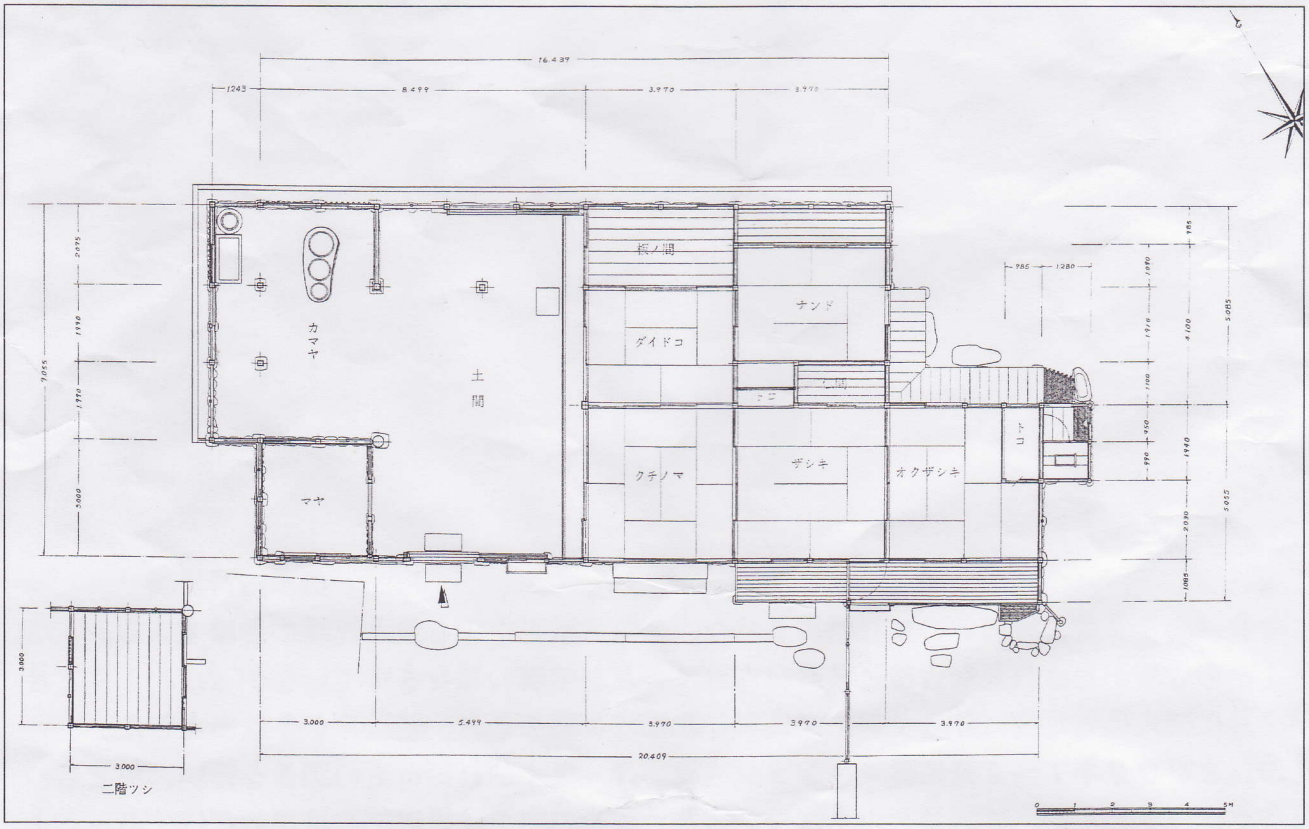
ふ 古い民家の山添家

国重文山添家

寛永２年の棟札

山添家

江戸時代、代々寺村の庄屋を務めた名家で、主屋から発見された棟札に宝永２年（１７０５）の年号が書かれていました。また「寺村九左衛門平精」の名がみられることら、今から９代前の九左衛門の代に建てられたことがうかがえます。この民家は、「オクザシキ」が東側に突出している四軒取りの変形と考えられ、土間が広く、「クチノマ」は「ゲンカン」を兼ねた形と考えられます。



山添家平面図

古代人陽石崇拝遺跡碑

陽　石

奪衣婆

須弥寺

貞観元年（８５９年）に奈良大安寺の僧、行教が王城を鎮護したいとの宇佐八幡の託宣を受け、男山に勧進した。これが岩清水八幡宮である。その分霊のお移しの警固についておこしになったのが観音さまだという。その後、時は移り、藤原時代の中期、延久年間（１０６９－１０７４）ここの堂宇は荒廃したが、その頃、岩清水八幡神官の森宮内少輔がこの観音堂の再興を思い立ち信仰が広まるにしたがい、建立者の名も高くなり、これまでの「無垢根の里」の名が「森」と変わった。

大畑古墳（中期）

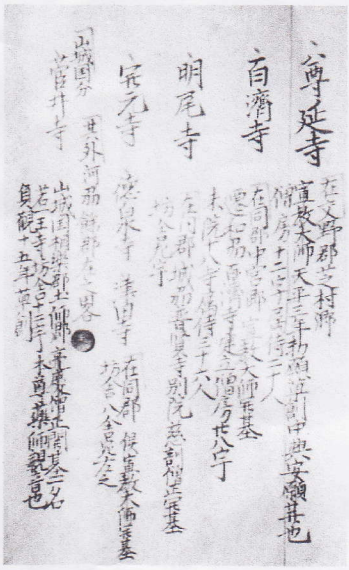
出土円筒埴輪

全長は約８５㍍、後円部の直径は約５０㍍、車塚古墳群中でも最大規模の古墳である。
早くから古墳かとされ大畑古墳と名付けられていたが確認の機会を得ていなかったが１９７８年２月に個人住宅建設に伴って初めて後円部北端縁が調査され、埴輪片が多数出土した。
その後２００２年１～２月にはマンション建設に伴ってくびれ部付近の調査を行い、川原石の葺石が検出されたが、埴輪片の出土はなかった。埴輪の樹立は後円部の墳頂部だけであったようである。

そ 礎石にしのぶ開元寺

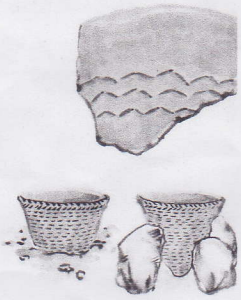
交野郷土史かるた

此附近天平時代開元寺跡碑



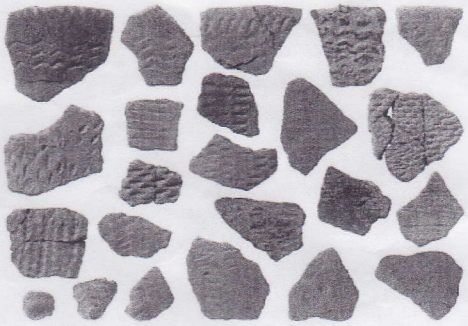
興福寺官務牒疎

し 縄文（じょうもん）の遺跡 豊かに神宮寺



交野郷土史かるた

神宮寺縄文時代住居跡碑



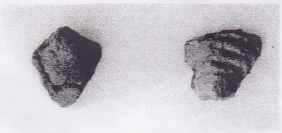
神宮寺式縄文式土器

神宮寺式土器

この方法ですると、はまぐりなど相当厚味のある貝は一枚合せた間の隙間が楕円文の底に残って ⬭ 形となっている。

これは現在の貝をつかって粘土の上に施文をしてみてもすぐできる。

この式の土器片の中で山本収氏の手によって出されたものに尖底とその付近の一部がある。又別の土器片には口縁部付近のものがあって、朝顔形に反っている深鉢のような器形を知ることができて、その想像復元は左図の如くである。



尖底土器（神宮寺遺跡出土）

神宮寺遺跡

交野考古学会が昭和２９年１０月、櫻井敬夫氏が神宮寺宮ノ下で縄文時代の石鏃を採集、翌３０年地元の今堀氏がブドウ畑でサヌカイト片、また弥勒石仏付近で石鏃を発見！こうして神宮寺付近に縄文時代の集落があることが確実となり、神宮寺遺跡と名付けられた。続く３２年、一点の土器片を採取。この土器こそ、縄文時代早期の押型文土器であり、後にこの遺跡地の名をとって「神宮寺式土器」と呼ばれ「神宮寺遺跡」の名が全国に知られる端緒ともなる土器であった。昭和４７年「考古学ジャーナル」７２号に掲載、押型文土器の起源を示す土器であることで学界に強い衝撃を与えた。（草創期）

お織姫まつる機物（はたもの）神社

交野郷土史かるた

機物神社の鳥居の中に交野山

機物神社の御祭神は
天棚機比売大神（あまのたなばたひめのおおかみ）
栲機千々比売大神（たくはたちぢみひめのおおかみ）
地代主大神（とこしろぬしのおおかみ）
八重事代主大神（やえことしろぬしのおおかみ）

河内名所図会：享和元年（１８０１年）

機物神祠　倉治村あり。此所の産土神とす。例祭、七月七日。祭礼の時、童男壱人を選んで祭主とし、甚、汚穢不浄を禁ずる事を専要とす。昭和５４年、氏子と地域の人々で復活

平成２１年機物神社七夕祭り

仁平川の洗濯場

交野市教育文化会館歴史民俗資料展示室

登録有形文化財（平成１９年１２月５日）

皆で守ろう
故郷の
文化財！